



岡 津



令和3年度のキーワード

「つなぐ 自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>



学校だより 6月号
令和3年5月31日
横浜市立岡津小学校
校長 宮路 ますみ
TEL 811-4104
FAX 812-4586

『雨読』のすすめ

副校長 松谷 隆広

令和3年度に入ってから早いもので二か月が過ぎようとしています。季節は移ろい、町で見かける花もツツジから紫陽花へと変わりました。これから本格的な雨の季節に入っていきます。

さて、雨の日が続く季節になりますと、表題の四字熟語『晴耕雨読』を思い出します。「晴耕雨読」とは読んで字の如く、晴れた日には田畑を耕し、雨の日には家にこもって読書をする意味です。そこから転じて『田園で世間の煩わしさを離れて心穏やかに暮らすこと』という意味でも使われるようになったとのことです。(出典 新明解 四字熟語辞典 三省堂)

ここでは、『晴れた日に耕す』、『雨の日の読書』ということを学校生活に当てはめて考えてみたいと思います。『晴耕』を『体を鍛えること』と捉えると、梅雨時期の貴重な晴れの日には外で元気よく遊び、体を動かす心地よさを味わって仲間とその絆を深める。『雨読』は、雨の日が続くこの季節の室内での過ごし方の一つとして、本を手に取り静かに「読書」をする。学校で豊かに生活していくためのヒントがこの四字熟語「晴耕雨読」という言葉に込められているような気がします。6月はこの「晴耕雨読」を意識しながら学校生活を過ごして欲しいと願っております。雨が降り続く季節ですから、とりわけ『雨読』を大切にしたいと思います。

ところで、読書をするということ、即ち、本を手取るの意味とは何でしょうか。私は、良質の書籍には一つの大きな世界観があり、一冊読み終えた時に読み手の心にそれを残してくれるような気がしています。読書量が増えると、さらに様々な世界観が心の中に蓄積され、それが考えの土台となり、現実の世界で経験できないことを想像できるようになっていくのではないかと考えています。

子どもの読書意欲を高め、読書好きな子どもを育てていくためには、ご家庭での協力も必要です。読書は環境作りからです。昨今、「なかなか読む時間がない。」「ゲームばかりしている。」という声がよく聞かれます。読み聞かせをしたり、大人が読書してモデルを示したり、図書館に連れて行ったりして、本との出会いを演出すると自然と子どもは本に興味を持ちます。雨の止まない休日がありましたら、ぜひ、テレビやネット動画を時々オフにして、家族みんなで『読書タイム』を楽しんでみてはいかがでしょうか。